

● シリーズ 私の見た日本 Vol.200

「近江神宮」がもたらした日本建築との出会い

金 承賢(キム スンヒョン)

韓国ソウル生まれ。
2019年日本文理大学工学
部建築学科住居・インテリア
デザイン専攻

私はまさか自分が日本に留学し、生活をするとは想像もしていませんでした。韓国で大学を卒業し、就職すると思っていました。しかし、「ここ」が私の退屈な人生を完全に変えるきっかけになりました。それは、「近江神宮」という所です。

近江神宮との出会い

ここは京都府大津市にある祠堂で、日本の伝統的な遊びであるカルタを扱ったアニメ「ち

はやふる」を通じて知った場所です。毎年カルタ決勝戦が行われる場所でもあり、韓国の歴史とも関連の深い建築物でした。近江神宮は古代の百済と格別の縁がある祠堂とのことです。この神宮で祀られている位牌は天智天皇ですが、660年に羅唐連合軍によって百済が敗亡した際、百済に救援軍を派兵したのが天智天皇です。天智天皇は百済の敗亡後、日本に亡命した百済人にも積極的に土地を譲って定着させました。このような背景か

ら、日本人は天智天皇を「百済マニア」と呼ぶこともあるそうです。

また、韓国外国語大学を卒業後、日本専修大学大学院で文学博士学位を取得した洪潤基(ホン・ユンギ)教授は「天智天皇は百済人と最もゆかりの深い人物で、今日まで現存する近江神宮はそのつながり」について述べており、私はこの論文を読んで近江神宮の歴史について勉強しました。

このような歴史を知り、日本に対する好感度が急上昇し、真っ赤な神宮が私の心まで情熱的に染めました。それがきっかけとなり、日本留学を決心して建築学科に進学することにしました。

日本での地域交流を経ての変化

日本に留学に来てから、日本の可愛らしくて個性があふれる建築物に感動しました。同じ東アジア圏の国であるにもかかわらず、他の国と似ていながらも違う建築方式が表れているのが不思議で面白かったです。

日本の建築物は全体的に繊細です。それに比べて韓国は日本より人口密度が高く、土地が狭くて一戸建てが少なく、画一的な高層マンション、高層ビルが多く見られます。日本の建築物は韓国では感じられなかった住居環境の魅力を感じることができました。

建築学科の授業は、計算をして図面を作成したり、材料・構造力学など難しい科目を学んだりするだけだと思っていましたが、地域づくり、地域活性化に貢献できる現場体験授業やプロジェクトがあり、それが私にとってとても良い学びを得ました。

私は外国人ですが、留学先でもある第2の故郷でもある大分を輝かせるために多様な活動をしました。地域づくり実践入門という授業で「臼杵市の竹宵祭り」に参加するようになり、展示するオブジェを作るようになりました。私が直接作ったオブジェで村を美しく飾ることができるということに大きな期待感を持つことができました。九州は竹林の面積が

多く竹が豊富ということもあり、竹を材料に提灯を作ることになりました。のぎりや刀を使って竹を扱いやすく切り、近江神宮を思い浮かべながら、もみじ状に繊細に切った後、穴を開けた内部を筆で色とりどりに塗りました。最後に開けた穴の中に明かりを入れました。展示された作品を見て嬉しさを感じました。

他にも、豊後大野市三重町で地域活性化プロジェクトにも参加しました。市場街の光環境改善を目的に、現地に光をテーマとしたイベントを企画して実現したものです。地元の人と一緒に牛乳箱でランタンを作ったり、数千個のろうそくで街を飾りました。写真に映ってるろうそくの形は「谷間を渡る虹のような橋」という意味で江戸時代当時の日本最大の石橋です。私はろうそくがきらめく光景を見て心が暖かくなりました。

またそれだけでなく、佐賀関の関崎灯台を

きれいに掃除する環境整備活動も行いました。佐賀関地域は高齢化が急速に進んでいるため、佐賀関半島の豊かな資源を活用した観光交流人口の拡大に取り組んでいる地域です。今回の活動はその環境整備の一環として、草木の伐採などを行いました。このような活動を通じて、私の些細な行動が誰かには大きな助けになることに大きなやりがいを感じるようになりました。

“Pay it forward”の精神

私は日本でのアルバイト先の社長から“Pay it forward”という言葉を知りました。そしてこの言葉は私の人生に対する観念を丸ごと変えるようになりました。“Pay it forward”は、私が誰かに助けてもらった時、助けてくれたその人に恩返しをするのではなく、全く関係のない人に私がもらったも

のを返すことです。善行を分かち合えば、その助けを受けた人がまた他の人に助け、結局世の中は自然と美しくなれるという意味の言葉です。この言葉を聞いて私は自分の現在のためではなく、次の世代が楽に暮らせる環境を作ってあげたいし、譲りたいと思いました。建築に関する興味はもちろん、環境についても考えさせてくれる貴重な時間でした。私が日本に住みながら日本の方々からいただいた多くの関心と助けを忘れず、対価を望まない善行を続けて次の世代にまで伝えるように努力したいです。

私はいつか近江神宮のように素敵な建物を建てるのが夢です。これから日本に就職してもっと日本を味わって文化を十分理解し、日本と韓国の雰囲気混ぜたような独特な建築物を建てたいと思います。

